

シラバス

2年次

教育課程表進度表

1. 基礎分野

科学的思考の基盤

情報科学Ⅱ(看護における情報活用)

2

発達と教育

3

人間と生活・社会の理解

家族社会学

4

英語

5

2. 専門基礎分野

健康支援と社会保障制度

保健医療論

6

地域医療

7

公衆衛生

8

医療と倫理

9

社会福祉

10

3. 専門分野

基礎看護学

看護倫理

11

臨床看護学概論

12

地域・在宅看護論

地域・在宅看護概論

13

地域・在宅看護援助論Ⅰ(訪問看護のしくみ・看護過程)

14

地域・在宅看護援助論Ⅱ(訪問看護技術)

15

地域・在宅看護援助論Ⅲ(意思決定支援)

16

成人看護学

成人看護学援助論Ⅰ(急性期:周手術期の看護・消化器・性・生殖器)

17

成人看護学援助論Ⅱ(急性期:集中治療時の看護・循環器)

18

成人看護学援助論Ⅲ(回復期:脳・神経・運動器)

19

成人看護学援助論Ⅳ(慢性期:内分泌・代謝・消化器・呼吸器)

20・21

成人看護学援助論Ⅴ(終末期:血液・造血器・女性生殖器・泌尿器・呼吸器)

22・23

老年看護学

老年看護学援助論Ⅰ(健康維持の看護)

24

老年看護学援助論Ⅱ(健康障害時の看護)

25・26

老年看護学援助論Ⅲ(看護技術)

27

小児看護学

小児看護学援助論

28

小児の健康障害と看護

29

小児看護学援助論Ⅰ(健康障害の看護)

30

小児看護学援助論Ⅱ(看護技術)

31

母性看護学

母性看護学概論

32

女性の健康障害と看護

33

母性看護学援助論Ⅰ(正常経過時の看護)

34・35

母性看護学援助論Ⅱ(異常時の看護・看護技術)

36・37

精神看護学

精神看護学概論

38

心の健康障害と看護

39

精神看護学援助論Ⅰ(精神障害時の看護)

40

精神看護学援助論Ⅱ(看護過程)

41

看護と統合の実践

医療安全と看護Ⅰ(医療安全の基礎)

42

医療安全と看護Ⅱ(看護実践と医療安全)

43

臨床看護のリフレクション

44

臨地実習

基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)

45

成人・老年看護学実習Ⅲ

46

老年看護学実習

47

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		情報科学Ⅱ（看護における情報活用）				基礎分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		金本 直澄（1コマ） 水越 スミコ（7コマ）					
授業目的		看護の専門性を発揮するために必要不可欠なICTを取り入れながら、情報とコミュニケーションを看護の実践や学問としての看護学に生かす方法を理解する。					
到達目標		1) 情報を扱うにあたり、必要な情報倫理を理解し情報処理の手法がわかる。 2) データから必要な情報を導き出し、統計学の基礎理論を理解し、活用することができる。					
授業の概要		授業内容と現実の具体的事象とを照合しながら理解し、他教科の学習内容・方法に生かす。					
成績評価		定期試験（70％）、課題（30％）					
教科書等		中山和弘：看護情報学（医学書院） 坂下玲子：看護研究 （医学書院）					
自己学習		予習時、分からない言葉は調べてノートに記載しておく。 講義後は毎回要点をノートに整理し理解する。					
留意事項（持参品等）							
授業計画（授業内容）		第1回	（金本先生）小論文の書き方				
		第2回	情報の定義と特徴、社会と情報（1・2章）				
		第3回	保健医療における情報①		（3・5章B①～⑦）		
		第4回	保健医療における情報②		（5章C）		
		第5回	情報と倫理		（6・7・8章）		
		第6回	コンピュータリテラシーとセキュリティ（9章）				
		第7回	保健医療における情報③		（4・5章AB⑧～⑪）		
			情報処理・文献検索		（10章）（演習を含む）		
			情報の発表とコミュニケーション（14章）				
		第8回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		発達と教育				基礎分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		平野 晋吾					
授業目的		国際教育、人権教育、環境教育などの領域から多角的に教育学を講じ、これからの社会について教育と看護の側面から捉えさせる。 人間の生命や成長にかかわる職業に就くために必要な倫理観と幅広い見識を身につけさせる。					
到達目標		1)教育学の領域で起こる事象についてさまざまな具体例をもとに人間を幅広く理解することができる。 2)今後の教育と看護の分野で起こり得る課題について論理的思考を基に問題解決に向けて協同的に取り組む態度を身につけることができる。 3)人間の生命や成長にかかわるために必要な倫理観を養うことができる。					
授業の概要		本講義では、現代社会の中で起きている課題の解決に向けて、教育学の視点からどのように取り組むことができるのかを論じていく。また、教育と看護に共通する課題についても随時取り扱う。授業は参加型で行い、シミュレーション、ロールプレイ、ディスカッション、メディア教材等を多用して行う。					
成績評価		授業での課題(30%)、授業での参加貢献度(30%)、最終レポート(40%)					
教科書等		授業内で資料プリントを配布する。 その他、参考文献等を授業内で指示する。					
自己学習		教育に関する時事問題も授業時に取り扱うので新聞を読んでおくこと。 その他、授業において指示する課題を行うこと。					
留意事項(持参品等)		参加型で行うので、授業への積極的な参加を期待する。					
授業計画(授業内容)		第1回	オリエンテーション:授業の概要説明				
		第2回	世界経済について考える				
		第3回	格差社会と教育				
		第4回	価値観と教育				
		第5回	「いじめ」をなくすために				
		第6回	文化と教育①				
		第7回	文化と教育②				
		第8回	教育制度				
		第9回	環境教育				
		第10回	教育と看護の共通点を探る				
		第11回	発達障害の理解				
		第12回	発達障害の支援				
		第13回	虐待				
		第14回	生涯学習と子どもの幸福				
		第15回	総括:これからの看護と教育				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		発達と教育				基礎分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		平野 晋吾					
授業目的		生物・心理・社会的モデルの観点から、人の生涯発達とその多様性、そして環境が発達に及ぼす影響について講じ、一人ひとりを尊重した支援について教育と看護の側面から捉えさせる。 人間の生命や成長にかかわる職業に就くために必要な倫理観と幅広い見識を身につけさせる。					
到達目標		1)教育学の領域で起こる事象についてさまざまな具体例をもとに人間を幅広く理解することができる。 2)今後の教育と看護の分野で起こり得る課題について論理的思考を基に問題解決に向けて協同的に取り組む態度を身につけることができる。 3)人間の生命や成長にかかわるために必要な倫理観を養うことができる。					
授業の概要		本講義では、現代社会の中で起きている課題の解決に向けて、心理学・教育学の視点からどのように取り組むことができるのかを論じていく。また、教育と看護に共通する、協働して解決すべき課題についても随時取り扱う。授業は参加型で行い、グループワーク、ディスカッション、メディア教材等を多用して行う。					
成績評価		授業での課題(30%)、授業での参加貢献度(30%)、最終レポート(40%)					
教科書等		授業内で資料プリントを配布する。 その他、参考文献等を授業内で指示する。					
自己学習		教育に関する時事問題も授業時に取り扱うので新聞を読んでおくこと。 その他、授業において指示する課題を行うこと。					
留意事項 (持参品等)		参加型で行うので、授業への積極的な参加を期待する。					
授業計画(授業 内容)		第1回	オリエンテーション:授業の概要説明				
		第2回	生涯発達の概観(1)胎児期～幼児期				
		第3回	生涯発達の概観(2)児童期～青年期				
		第4回	生涯発達の概観(3)中年期以降				
		第5回	生活環境と発達(1)家庭生活				
		第6回	生活環境と発達(2)就学前施設・学校生活				
		第7回	生活環境と発達(3)職場生活				
		第8回	睡眠と発達				
		第9回	睡眠教育				
		第10回	生物・心理・社会的モデルによる多様性の理解				
		第11回	発達障害の理解(1)教育における理解				
		第12回	発達障害の理解(2)情動・認知・睡眠				
		第13回	発達支援(1)アセスメント				
		第14回	発達支援(2)自己理解と自立の支援				
		第15回	発達支援における教育と医療・看護の協働(まとめ)				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		家族社会学				基礎分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		客本 牧子					
授業目的		看護専門職者として、「人」を看る上で必要な個人を取り巻く家族及び地域社会の関係について学び、社会的存在としての個人及び家族について学ぶ。					
到達目標		1) 社会学とは何かについての概要を学び、社会の本質について知る。 2) 人間社会の構造について知り、地域、家族、職業などに関する現代社会の基礎的知識を理解できる。 3) 家族の概念、家族内の人間関係について理解できる。 4) 医療社会学の基礎を理解できる。 5) 家族支援のアプローチの方法を理解できる。					
授業の概要		日本の社会及び自分の地域を通して社会についての理解を進める。現代社会における家族のあり方と人間関係を理解し、理論を活用して家族支援のアプローチ法を学修する。					
成績評価		出席状況・授業態度・レポート及び定期試験結果を総合的に判断する					
教科書等		平野かよ子他：ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障[1] 健康と社会・生活（メディカ出版） 適宜、資料を配布する。					
自己学習							
留意事項（持参品等）							
授業計画（授業内容）		第1回	社会				
		第2回	社会と集団				
		第3回	社会規範				
		第4.5回	社会構造と集団・組織・ネットワーク				
		第6回	家族とは 多様な家族の形について				
		第7回	夫と妻のパートナーシップ				
		第8回	親と子と孫の絆				
		第9回	職業とは				
		第10.11回	医療従事者と医療組織				
		第12回	家族支援のアプローチ法				
		第13回	家族支援のアプローチ法				
		第14回	家族支援のアプローチ法				
		第15回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		英 語				基礎分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		山内 圭					
授業目的		英語を通して外国の言語・文化を学び、国際的視野を広げるとともに、看護に必要な医学英語を修得する。					
到達目標		1) 言語や文化に対する関心を持ち、英語の成り立ち、仕組みが理解できる。 2) 看護に必要な医学英語を理解できる。 3) 国際的なコミュニケーション手段としての英語を身につけることができる。					
授業の概要		医学英語の読解、看護場面での日常英会話、看護の文献読解ができることを目指す。					
成績評価		定期試験(90%)、平常点(授業時の発表、毎回行う医療英単語の小テスト、提出物など)(10%)で総合的に評価する。					
教科書等		古閑博美・野口陽子:English for Cure and Hospitality I キュアとホスピタリティの英語 I (弓プレス)					
自己学習		毎回授業の予習をして授業に臨むこと。					
留意事項(持参品等)		中型サイズの英和辞典(高校時に使用したものでよい)を用意すること。電子辞書等も可とする。					
授業計画(授業内容)		第1回	ガイダンス、Chapter 1				
		第2回	Chapter 2				
		第3回	Chapter 3				
		第4回	Chapter 4				
		第5回	Chapter 5				
		第6回	Chapter 6				
		第7回	Chapter 7				
		第8回	Chapter 8				
		第9回	Chapter 9				
		第10回	Chapter 10				
		第11回	Chapter 11				
		第12回	Chapter 12				
		第13回	Chapter 13				
		第14回	Chapter 14				
		第15回	Chapter 15				

学科		看護学科		開講年度		令和8年度	
科目名		英 語				基礎分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		山内 圭					
授業目的		英語を通して外国の言語・文化を学び、国際的視野を広げるとともに、看護に必要な医学英語を修得する。					
到達目標		1) 言語や文化に対する関心を持ち、英語の成り立ち、仕組みが理解できる。 2) 看護に必要な医学英語を理解できる。 3) 国際的なコミュニケーション手段としての英語を身につけることができる。					
授業の概要		医学英語の読解、看護場面での日常英会話、看護の文献読解ができることを目指す。					
成績評価		定期試験(90%)、平常点(授業時の発表、毎回行う医療英単語の小テスト、提出物など)(10%)で総合的に評価する。					
教科書等		田中博晃・眞砂薫: Care for All 医療従事者のためのやさしい英語コミュニケーション(成美堂)					
自己学習		毎回授業の予習をして授業に臨むこと。					
留意事項(持参品等)		中型サイズの英和辞典(高校時に使用したものでよい)を用意すること。電子辞書等も可とする。					
授業計画(授業内容)		第1回	ガイダンス、Unit 1				
		第2回	Unit 2				
		第3回	Unit 3				
		第4回	Unit 4				
		第5回	Unit 5				
		第6回	Unit 6				
		第7回	Unit 7				
		第8回	Unit 8				
		第9回	Unit 9				
		第10回	Unit 10				
		第11回	Unit 11				
		第12回	Unit 12				
		第13回	Unit 13				
		第14回	Unit 14				
		第15回	Unit 15				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		保健医療論				専門基礎分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		渡辺 浩志					
授業目的		医療チームの一員としての自覚や看護倫理の学びに関連させ、人間尊重の理念を深め、健康を守るための様々な捉え方を学修する。					
到達目標		1)医療を取り巻く背景が理解できる。 2)「患者中心の医療とは」が理解できる。 3)チーム医療について理解できる。 4)医療に関連する各制度との関連が理解できる。					
授業の概要		政治・経済・宗教・文化の変化とともに、患者の権利、倫理問題など医療に関する社会問題や課題も多く、問題は多様に複雑化しているので、対象者の命・生活を支え、ニーズに沿った医療の提供が必要であることを理解する。 そのために「保健医療福祉制度」と学習を関連づける。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		千代豪昭他:学生のための医療概論 第4版 (医学書院)					
自己学習							
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	医療システムを理解する				
		第2回	医療システムを理解する				
		第3回	健康とは				
		第4回	医療がたどってきた道と未来への展望				
		第5回	医療がたどってきた道と未来への展望				
		第6回	医療は誰のものか				
		第7回	医療は誰のものか				
		第8回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		地域医療				専門基礎分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		吉岡 孝					
授業目的		高齢化が進み「病気を治す」ことから「健康を増進する、病気を予防する、病気を管理する」ことへ転換されるようになり、住民の健康問題のみならず、生活の質にも注目しながら、住民一人ひとりに寄り添って支援できる医療活動を学修する。					
到達目標		1) 地域医療が理解できる。 2) 地域医療の対象者が理解できる。 3) 地域医療に関わる住民・保健・医療・福祉の連携が理解できる。 4) 地域医療の現状と課題が理解できる。					
授業の概要		医療の現状や地域医療を学び、地域社会における地域医療について理解する。地域医療にかかわる人的要素や組織、地域医療の在り方と現状および課題を理解し、地域医療に貢献できる能力を養う。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		自治医科大学監: 地域医療テキスト(医学書院)					
自己学習		地域保健の学習と併用して履修する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	医療の現状と地域医療				
		第2回	地域社会と地域医療				
		第3回	地域医療の概念と地域医療学				
		第4回	システムとしての地域医療				
		第5回	地域医療システムを構成する人的要素				
		第6回	自治体(都道府県・市町村)・NPO				
		第7回	外来診療・入院診療・在宅医療				
		第8回	まとめ、試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		公衆衛生				専門基礎分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		住吉 悦子					
授業目的		多くの人々の健康に関わる公衆衛生課題を理解するための基礎的知識を学び、人々の健康の保持・増進、疾病の予防を看護の役割として理解する。					
到達目標		1) 公衆衛生の基本内容を理解できる。 2) 健康生活に影響する保健活動を理解できる。					
授業の概要		社会のなかで健康な生活を送る人たちに看護を提供するためには公衆衛生活動や看護の役割を理解する必要がある。 公衆衛生の基本を理解し、具体的な事例を通して諸施策の内容や現代社会における公衆衛生活動理解を進める。					
成績評価		定期試験					
教科書等		神馬征峰他：公衆衛生（医学書院） 厚生労働統計協会：国民衛生の動向（一般財団法人厚生労働統計協会）					
自己学習							
留意事項（持参品等）							
授業計画（授業内容）		第1回	公衆衛生と健康				
		第2回	疫学方法論と健康指標				
		第3回	感染症とその予防				
		第4回	食品の安全と衛生				
		第5回	環境要因と健康				
		第6回	地域保健活動				
		第7回	ヘルスプロモーションと健康日本21				
		第8回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		医療と倫理				専門基礎分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		松井 喜治					
授業目的		遺伝子治療、ゲノム改変の基本的な役割から医療倫理・臨床倫理を包括した生命倫理学を理解する。					
到達目標		1) 遺伝子治療、ゲノム改変の基本的な役割を理解できる。 2) 遺伝子治療、ゲノム改変の倫理的問題点を理解できる。 3) 命について考えることができる。 4) 生命倫理の重要性について理解できる。 5) 生命倫理に関して何をどう考えて進むのか事例を通して考えることができる。					
授業の概要		遺伝子治療やゲノム改変の基本的な役割を理解したうえで、医療における倫理問題を考える手がかりを提示し、いくつもの視点を見出し、自ら考えることについて理解する。 主に遺伝子技術や生殖技術、移植医療、人工妊娠中絶、安楽死について生命倫理的に理解する。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		平野かよ子他:ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障[1] 健康と社会・生活(メディカ出版) 資料等を配布する。					
自己学習		講義で行った内容を復習し理解する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	ゲノムとは、遺伝子検査の倫理的問題点				
		第2回	遺伝子治療の可能性と倫理的問題点				
		第3回	再生医療の可能性と倫理的問題点				
		第4回	ゲノム編集の倫理的問題点				
		第5回	脳死と臓器移植、対象者の自己決定権				
		第6回	生殖補助医療による出生前診断				
		第7回	安楽死と尊厳死				
		第8回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		社会福祉				専門基礎分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		原田 寛雄					
授業目的		人間の生活にとって社会保障・福祉とは何かを考察する。医療・保健・福祉・介護に関する制度設計、共助・公助のしくみ、重層的支援体制など看護職能に連担する領域の知見を深める。 想定される、又は想定外でのリスクに直面して社会参加が困難になったとき、どこに相談支援の社会資源を求め、有効なアプローチができるか体系的に学ぶ。					
到達目標		1) 社会福祉を学ぶ意義について理解できる。 2) 福祉や医療に関わる法令、法律について制度設計を理解できる。 3) 様々な対象者ごとの制度について理解できる。 4) 社会保障や社会福祉など関連制度の意義について理解ができる。 5) 労働衛生や公衆衛生に関わる法規について理解ができる。					
授業の概要		医療・福祉分野で重要なファクターである保健医療福祉の制度設計について理解する。関係法規についても、看護師として対象者を「困難」に応じて包括的に支援できるようにするための体系的知見を身に着ける。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		福田素生他:健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉(医学書院)適宜プリントも補完的に配布する。					
自己学習		予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読すること。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	現代社会と社会福祉・社会保障				
		第2回	社会福祉の実践方法				
		第3回	児童福祉・障害者福祉				
		第4回	介護保険・高齢者福祉				
		第5回	所得保証・公的扶助				
		第6回	医療制度並びに医療保険制度				
		第7回	福祉職による支援の実践－相談援助技術(個別・集団支援)				
		第8回	高齢者の医療・保健に関する法規				
		第9回	障害者の医療・保健に関する法規				
		第10回	看護と福祉の連携事例検討－社会福祉の担い手、組織、サービス				
		第11回	ボランティア活動とボランティア支援について				
		第12回	災害支援について考える－活動、避難所				
		第13回	公衆衛生に関する法規				
		第14回	社会保障を巡る情勢の総括と医療福祉分野の課題				
		第15回	まとめ、試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		看護倫理				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		村上 重子					
授業目的		職業倫理としての看護倫理について学び、医療・看護をめぐる倫理原則を理解する。					
到達目標		1)看護倫理の概念が理解できる。 2)患者の権利と擁護の重要性が理解できる。 3)臨地実習・看護研究に必要な倫理原則とケアの倫理が理解できる。					
授業の概要		看護倫理の基本となる考え方をしっかりと抑えられるように看護倫理の概論について理解する。 看護者の倫理綱領と領域別倫理、臨地実習に向けての倫理的な反応が行えるように、各領域に特有な倫理問題が内在する事例を学び、感受性と思考力について理解する。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		宮坂道夫他:看護倫理(医学書院)					
自己学習		授業前 課題に取り組んでおく					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	倫理とは				
		第2回	看護倫理の基礎知識				
		第3回	患者の権利と擁護				
		第4回	看護者の倫理綱領				
		第5回	看護者の倫理綱領				
		第6回	倫理原則とケアの倫理				
		第7回	倫理原則とケアの倫理				
		第8回	まとめ、試験				
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		臨床看護学総論				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		坂本 聡子					
授業目的		健康障害をもつ対象の症状・経過・治療処置を理解し、その状況・状態に応じた看護の方法を学ぶ。					
到達目標		1) 症状のある対象の理解とその状況に応じた援助が理解できる。 2) 対象の経過・治療処置を理解し、その状況に応じた援助が理解できる。					
授業の概要		症状のある対象の理解とその状況に応じた看護の方法を学ぶ。 症状を訴える患者に対して的確な看護が実践できるための観察力と判断力をシミュレーション学習を通して養う。 また、身体侵襲を伴う治療・検査・処置を受ける対象への看護の基本的な知識・技術について学ぶ。					
成績評価		定期試験(100%) 提出物・演習姿勢を含む。					
教科書等		香春知永他:基礎看護学[4] 臨床看護総論(医学書院) 【参考書】高木永子(監):看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント第5版(学研)					
自己学習		事前学習ノートの作成、演習については教員からの課題および準備がある。					
留意事項(持参品等)		演習時には白衣ナースシューズ他規定どうりの身だしなみを整える。					
授業計画(授業内容)		第1回	健康状態の経過に沿った看護の概要				
		第2.3回	主要な症状を示す対象者への看護 呼吸困難のある患者の看護 ーO2ボンベ・パルスオキシメーターの概要				
		第3.4回	咳嗽・喀痰のある患者の看護 ー体位トレーニング・気道内吸引の概要				
		第5回	発熱のある患者の看護 ー罨法の意義と概要				
		第6回	疼痛のある患者の看護 ー罨法の意義と概要				
		第7.8回	脱水・浮腫のある患者の看護				
		第9回	治療処置を受ける患者の看護 安静療法を受ける患者の看護				
		第10回	運動療法を受ける患者の看護				
		第11回	輸液療法を受ける患者の看護				
		第12.13回	化学療法を受ける患者の看護 医療機器(ME機器)を使用する患者の看護				
		第14回	放射線療法を受ける患者の看護				
		第15回	まとめ、試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		地域・在宅看護概論				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		丸山 宏修					
授業目的		地域・在宅看護の対象に対する看護の役割を学び、地域・在宅看護を実践するために必要な知識、技術を理解できる。 また、地域包括支援センターの役割を学修する。					
到達目標		1) 地域・在宅看護の背景と意義について理解できる。 2) 地域・在宅看護の対象者について理解し、役割と機能について理解できる。 3) 地域・在宅看護の制度、チーム医療に関わる多職種との連携、社会資源について理解できる。 4) 地域包括ケアシステム・包括的支援事業が理解できる。 5) 地域・在宅看護の対象者の権利保障が理解できる。					
授業の概要		地域・在宅看護の目的を理解し、制度や対象者の特徴、家族を取り巻く社会背景や地域・在宅看護の仕組みを学び、関係職種との連携方法や社会資源など、地域・在宅看護の役割と機能について学修する。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		河原加代子他：地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤(医学書院)					
自己学習		地域の住民として、自分の居住区の健康・まちづくりの実態を把握し地域住民の主体的な活動を知り、参加可能なことがあれば参加する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1.2回	地域における暮らしを支える看護				
		第3回	地域・在宅看護実践の場				
		第4回	地域・在宅看護の対象者とその家族の理解				
		第5回	地域・在宅看護の対象者とその家族の生活と看護の必要性				
		第6回	地域・在宅看護の対象者および家族の生活における安全管理				
		第7回	家族看護の展開				
		第8回	在宅看護に関する法令・制度・・・地域包括ケアシステム				
		第9回	在宅看護における関係職種との連携方法や社会資源				
		第10回	地域における医療機関との連携・個人情報の保護と管理				
		第11回	在宅看護における対象者と家族の権利保障と個人の尊厳				
		第12回	マネジメントとケースマネジメント				
		第13回	地域包括ケアシステム、地域包括支援センターの役割・機能				
		第14回	包括的支援事業				
			自己決定への支援・自立・自律支援、QOL向上への支援				
		第15回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		地域・在宅看護援助論Ⅰ (訪問看護のしくみ・看護過程)				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		守屋 君子					
授業目的		在宅看護の基本を踏まえて在宅における対象者の日常生活行動の特徴とアセスメントの視点および看護援助を修得する。					
到達目標		1)療養者やその家族の生活を理解し、在宅看護の特殊性を踏まえた援助方法を理解できる。 2)在宅看護の役割と機能を理解できる。 3)多職種との連携や社会資源の活用方法について理解できる。					
授業の概要		在宅療養を支える訪問看護の特徴を理解し、危機管理及び在宅看護介入時期別の看護の役割、援助技術の基本的考え方を学ぶ。 在宅での看護過程の展開を学ぶ。					
成績評価		演習の状況やレポートの提出、定期試験により総合評価する。					
教科書等		河原加代子他：地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護の実践(医学書院)					
自己学習		在宅看護論・国民衛生の動向を読み関連して学習をする。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	訪問看護の特徴、訪問看護ステーションの役割				
		第2回	在宅看護における安全と健康危機管理				
		第3回	災害時の危機管理				
		第4回	在宅看護介入時期別の特徴 準備期・移行期・安定期				
		第5回	急性憎悪期				
		第6回	終末期・看取り				
		第7回	生活ケアと医療ケア				
		第8回	在宅療養における看護過程の展開				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		地域・在宅看護援助論Ⅱ (訪問看護技術)				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		守屋 君子 左近先生 作業療法学科or看護学科(共同学習)					
授業目的		在宅看護の基本を踏まえて在宅における対象者の日常生活行動の特徴とアセスメントの視点および基礎看護技術を活用した地域・在宅の看護技術を修得する。					
到達目標		1)療養者やその家族の生活を理解し、在宅看護の特殊性を踏まえた援助方法を理解できる。 2)在宅看護の役割と機能を理解できる。 3)訪問看護に必要な知識や技術が修得できる。 4)多職種との連携や社会資源の活用方法について理解できる。					
授業の概要		在宅療養を支える基本的な技術及び生活援助技術と療養・治療に応じた看護技術について修得する。					
成績評価		演習の状況やレポートの提出、定期試験により総合評価する。					
教科書等		河原加代子他:地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護の実践(医学書院) 臺有桂:ナースンググラフィカ 地域・在宅看護論(2) 在宅療養を支える技術					
自己学習		在宅看護論・国民衛生の動向を読み関連して学習をする。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	在宅療養を支える技術ーコミュニケーション				
		第2回	在宅療養を支える技術ー環境整備、感染予防				
		第3回	在宅療養を支える技術ー食生活、排泄				
		第4回	在宅療養を支える技術ー清潔				
		第5回	在宅療養を支える技術ー肢位保持・移動、リハビリテーション				
		第6回	在宅療養を支える技術ー呼吸、睡眠				
		第7回	終末期看護				
		第8回	経管栄養				
		第9回	在宅中心静脈栄養法				
		第10回	在宅人工呼吸療法				
		第11回	在宅酸素療法				
		第12回	多職種連携・協働について				
		第13回	多職種連携・協働の実際① グループワーク(作業療法学科)				
		第14回	多職種連携・協働の実際② グループワーク(看護学科)				
		第15回	まとめ・試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		地域・在宅看護援助論Ⅲ (意思決定支援)				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		村上 悠也					
授業目的		在宅療養移行期や終末期、治療依存度の高い対象者や家族に対し、治療・処置や生き方の選択を必要とする事例をとおり、自己決定支援を中心とした看護を学ぶ。					
到達目標		1)在宅で療養する医療が必要な対象と家族に対し、意思決定を支えQOL向上を目指した援助技術を学ぶ。 2)多職種の支援体制が理解できる。 3)訪問看護師における特定行為について、医療行為と比較し理解できる。					
授業の概要		在宅で療養する医療が必要な対象と家族に対し、意思決定を支え、QOL向上を目指した援助技術や看護について、事例検討をとおり学ぶ。					
成績評価		演習レポート(10%)、終講試験(90%)の総合評価とする。					
教科書等		河原加代子他：地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護の実践(医学書院)					
自己学習		在宅看護論、地域医療・地域保健と併用して学習する。					
留意事項(持参品等)		指示されたテキストや地域に関する特性が分かるものを持参する。					
授業計画(授業内容)		第1回	在宅療養移行期の対象への看護				
		第2回	終末期(看取り期)とは				
		第3回	医療依存度の高い対象への看護				
		第4回	事例展開① 訪問看護の展開(訪問看護倫理を含む) 小児・精神障害(統合失調症)に対する在宅看護の実践				
		第5回	事例展開② 難病の理解とALS療養者に対する在宅看護の実践				
		第6回	事例展開③ がん終末期				
		第7回	死亡直後の看護、遺族ケア				
		第8回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		成人看護学援助論Ⅰ (急性期:周手術期の看護・消化器・性・生殖器)				専門分野	
学年	2年	開講期間	通年	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		友野 智絵(1～9回、12～14回) 妹尾 里美(10回) 廣中 亜紀(11回)					
授業目的		周術期の経過に沿った看護の特徴を理解し、対象者の身体的・精神的・社会的特徴を捉え、対象者と家族への看護援助を修得する。					
到達目標		1)手術療法と看護の役割について理解できる。 2)周術期にある対象者の特徴と援助について理解できる。 3)周術期過程に応じた看護が理解できる。 4)術後合併症の発症メカニズム、成り行きについて理解し、予防と発症時の看護について知識と技術を理解できる。					
授業の概要		手術を安全に行い、患者の手術後の回復過程を促すために手術前・中・後の全過程(周術期)における全人的な患者理解について学ぶ。事例を通して、患者の生活への影響を理解するための知識を習得し、術後合併症の予防・早期回復へ向けた援助を習得する。					
成績評価		定期試験で総合的に(提出物や授業態度を含む)評価する。					
教科書等		小松浩子他:臨床外科看護総論 (医学書院) 朝本俊司他:臨床外科看護各論 (医学書院) 南川雅子他:成人看護学[5] 消化器(医学書院) 末岡 浩他:成人看護学[9] 女性生殖器(医学書院)					
自己学習		テキストを熟読する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	周術期の基礎知識と生体の変化				
		第2回	周術期過程に応じた看護支援 術前・術中・術後				
		第3回	術後合併症の予防と看護①				
		第4回	術後合併症の予防と看護② 術後の継続看護				
		第5回	開腹術を受ける患者の看護				
		第6.7回	胃の手術を受ける患者の看護				
		第8回	食道がんの手術(内視鏡も含む)を受ける患者の看護				
		第9回	腹腔鏡下手術(胆嚢摘出術)を受ける患者の看護				
		第10回	乳房の手術を受ける患者の看護				
		第11回	放射線療法における患者の看護(食道がん、胃がん等)				
		第12回	術後患者の観察とアセスメント演習:問題の明確化と計画(GW)				
		第1回	術後患者の観察とアセスメント演習:援助計画立案(GW)				
		第14回	術後患者の観察とアセスメントの実際 (発表)				
		第15回	終了試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		成人看護学援助論Ⅱ (急性期:集中治療時の看護・循環器)				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		小林展久1回、小林久美2回、喜田典子2回、安田先生2回(1回～7回) 妹尾 里美(8～14回)					
授業目的		急性期にある成人と、クリティカルケア看護の特徴を理解し、看護援助の基本について知識と技術を修得する。					
到達目標		1)急性期看護に必要な概念を理解できる。 2)急性期看護を必要とする対象者と家族の特徴を理解できる。 3)クリティカルケア看護の特性と対象者と家族の特徴を理解できる。 4)クリティカルな対象者の主要病態の特徴とケアについて理解できる。 5)クリティカルな対象者のアセスメントの方法を理解し、技術を修得できる。					
授業の概要		急性期看護の特徴を理解するために、モニタリングやフィジカルアセスメント技術の修得、急性期医療、主な疾患や治療の特徴についてクリティカルな看護を交えて理解する。また、対象者と家族の精神的支援の必要性を理解し、様々なニーズに応じた看護の提供について学修する。					
成績評価		定期試験で総合的に評価する。					
教科書等		朝倉啓介他 :成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院) 吉田俊子他 :成人看護学[3] 循環器 (医学書院) 南川雅子他 :成人看護学[5] 消化器 (医学書院) 渡辺晋一他 :成人看護学[12] 皮膚 (医学書院) 朝本俊司他 :別巻 臨床外科看護各論 (医学書院) 小松浩子他 :成人看護学[1] 成人看護学総論 (医学書院)					
自己学習		テキストを熟読する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	急性期看護・クリティカルケア看護の特徴 危機状態にある成人の理解				
		第2.3回	疾患を持つ患者の看護:狭心症・心筋梗塞①疾患・治療とアセスメント				
			疾患を持つ患者の看護:狭心症・心筋梗塞②看護				
			循環器リハビリテーション看護(虚血性心疾患)				
		第4.5回	疾患を持つ患者の看護:弁置換術①疾患・治療とアセスメント				
			疾患を持つ患者の看護:弁置換術②看護				
		第6回	急性期治療の特徴と医療体制・重症集中治療室(ICU)				
			急性期看護の実際:酸素化・栄養管理・体液バランス・				
			日常生活援助・不快症状のコントロール				
		第7回	ショック時の看護(致死的不整脈、急変時の看護)				
		第8回	肺がん患者の肺切除看護				
		第9回	呼吸障害のある患者の看護:気胸、胸腔ドレーン挿入中の看護①				
		第10回	呼吸障害のある患者の看護:気胸、胸腔ドレーン挿入中の看護②				
			人工呼吸療法中の患者の看護				
		第11回	急性期症状のある患者の看護(問題の明確化、援助計画立案)				
第12.13回	急性期症状のある患者の援助場面演習(ドレーン管理の実際など)						
第14回	疾患を持つ患者の看護:熱傷、中毒、急性肝炎、急性膀胱炎						
第15回	試験						

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		成人看護学援助論Ⅲ (回復期:脳・神経・運動器)				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		友野 智絵(1回大腸)、朝日奈沙妃(2回、6～14回脳神経・運動器) 宮口 美穂(3、4、5回視覚・口腔・耳鼻)					
授業目的		成人期の健康障害から回復過程にあるリハビリテーション看護の対象者の特徴を理解し、看護援助の基本について知識と技術を修得する。					
到達目標		1)回復期にある成人期のリハビリテーション看護の対象者の特徴と看護の役割が理解できる。 2)リハビリテーション医療の特徴とチーム医療の役割が理解できる。 3)リハビリテーション期の対象者のニーズと看護が理解できる。 4)リハビリテーション期にある対象者の看護援助が理解できる。 5)リハビリテーション期にある対象者の看護の実際が理解できる。					
授業の概要		健康障害から回復過程にあるリハビリテーション期にある成人の特徴と看護援助について学修する。特に機能回復の過程、生活の再構築、社会復帰に向けての援助と関連する知識と技術について学修する。					
成績評価		演習・演習レポート(20%)、定期試験(80%)で評価する。					
教科書等		南川雅子他 :成人看護学[5] 消化器 (医学書院) 井手隆文他 :成人看護学[7] 脳・神経(医学書院) 田中栄他 :成人看護学[10] 運動器 (医学書院) 渋谷絹子他 :成人看護学[15] 歯・口腔(医学書院) 武田宜子他:リハビリテーション看護(医学書院)					
自己学習		テキストを熟読する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	消化、吸収機能障害のある患者の看護 (友野)				
			1)大腸がん患者の看護(人工肛門パウチ交換)				
			2)消化、吸収機能障害のある患者の看護				
		第2回	回復期・リハビリテーションの定義と理念(朝日奈)				
			回復期・リハビリテーション期の特徴と看護の役割				
			リハビリテーション期障害の特徴と予防改善のための看護援助				
			回復期にある対象の特徴とアセスメント(ADL)				
		第3回	口腔(舌がん)・咽頭腫瘍患者の看護 (宮口)				
		第4回	感覚器系の障害とリハビリテーション看護(視覚障害) (宮口)				
		第5回	感覚器系の障害とリハビリテーション看護(聴覚障害) (宮口)				
		第6回	運動器系の障害とリハビリテーション看護(骨折) (朝日奈)				
		第7・8回	脳・神経機能障害のある患者の看護 (朝日奈)				
			1)脳梗塞①疾患・治療②看護過程・リハビリテーション看護				
			(クモ膜下出血含む)				
		第9回	2)脊髄損傷①疾患・治療②看護過程・リハビリテーション看護				
		第10～12回	脳血管障害(脳梗塞)のリハビリテーション看護				
			(アセスメント、問題の明確化、看護計画立案)				
第13回	脳血管障害(脳梗塞)のリハビリテーション看護場面演習(発表)						
第14回	障害に対する受容と適応への看護						
	1)回復期看護に用いられる看護理論 自己概念、障害受容過程						
	2)廃用性症候群の予防						
	3)ADL拡大に向けた援助						
	チームアプローチと社会資源の活用						
第15回	試験 看護過程の展開						

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		成人看護学援助論Ⅳ (慢性期:内分泌・代謝・消化器・呼吸器)				専門分野	
学年	2年	開講期間	通年	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		妹尾 里美(1～4回)、 宮口美穂(5～14回)					
授業目的		慢性期に経過する疾患をもち、生涯にわたりセルフマネジメントが必要な成人と家族の特徴を理解し、看護援助の基本について知識と技術を学び、人体の機能系統別に成人が罹患しやすい主な疾患について、関連する基礎知識を統合し、必要な看護援助を修得する。					
到達目標		1) 慢性疾患の概念にもとづき慢性期看護の役割を理解できる。 2) 慢性疾患の特徴について理解できる。 3) 慢性期にある対象者と家族の身体的・精神的・社会的特徴について理解できる。 4) 慢性期にある対象者と家族に対する看護援助の基本について知識・技術を理解できる。 5) 慢性期疾患にある対象者の機能系統別に主な疾患について、病態、症状、検査、治療の基礎知識にもとづき、看護援助の知識と技術を理解できる。					
授業の概要		慢性期に経過する疾患をもち、生涯にわたりセルフマネジメントが必要な成人の特徴と役割を理解し、慢性期に多い疾患の特徴と治療を学修するなかで、慢性疾患の動向や社会背景を理解する。 そして、対象者となる成人の身体的・精神的・社会的特徴を学修し、慢性期にある対象者と家族がセルフマネジメント獲得への看護援助について社会資源の活用なども含めて理解する。 また、慢性疾患を持つ看護の実際を、成人が罹患しやすい主な疾患から機能系統別に事例展開し、看護過程を学修する。					
成績評価		定期試験(100%)で総合的に評価する。					
教科書等		浅野浩一郎他:成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院) 南川雅子他 :成人看護学[5] 消化器 (医学書院) 黒江ゆり子他 :成人看護学[6] 内分泌・代謝(医学書院) 今井亜矢子他:成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院) 岩田健太郎他:成人看護学[11]アレルギー・膠原病・感染症(医学書院)					
自己学習		テキストを熟読する。					
留意事項(持参品等)							

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		成人看護学援助論Ⅳ (慢性期:内分泌・代謝・消化器・呼吸器)				専門分野	
学年	2年	開講期間	通年	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		妹尾 里美(1～4回)、 宮口 美穂(5～14回)					
授業計画(授業内容)	第1回	慢性期看護の特徴				(妹尾)	
		慢性期にある対象の特徴と看護の役割					
	第2・3・4回	慢性の呼吸器障害のある患者の看護				(妹尾)	
		1)閉塞性呼吸器障害患者の看護					
		(アセスメント、問題の明確化、看護計画立案)					
		セルフマネジメントの概念と慢性期看護に適用される看護理論					
		病みの軌跡、変化のステージモラル、自己効力感、役割理論					
		セルフケア・自己管理への看護					
		社会支援体制の整備					
		1)退院調整と多職種連携					
		2)社会資源の活用					
	第5回	慢性の栄養・代謝機能障害のある患者の看護(宮口)					
		1)肝硬変患者の看護					
	第6・7回	自己免疫に関連した機能障害のある患者の看護(宮口)					
		潰瘍性大胃腸炎、クローン病					
		アレルギー疾病、自己免疫疾病、関節リウマチ					
	第8回	慢性の内部環境調整機能障害のある患者の看護(宮口)					
		1)甲状腺機能亢進症及び低下症の患者の看護 (宮口)					
	第9～12回	2)糖尿病患者の看護				(宮口)	
		(アセスメント、問題の明確化、看護計画立案)					
		セルフマネジメント獲得への看護援助場面演習					
	第13・14回	3)慢性腎不全患者の看護				(宮口)	
	第15回	試験					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		成人看護学援助論Ⅴ (終末期:血液・造血器・女性生殖器・泌尿器・呼吸器)				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
教員名		後藤直美(1～5回)、妹尾里美(6～8、12～14回)、 坂本聡子(9～11回)					
授業目的		がん患者に対する看護の重要性を理解し、がん医療の特徴を捉え看護の基本を学び、がん治療と関連性のある緩和ケアの基礎知識と看護援助を学修する。 また、終末期の概念や、倫理課題、チーム医療の重要性とともに終末期における対象者と家族の特徴を理解する。					
到達目標		1)現代のがん医療と看護の実際について理解できる。 2)がんの病態、臨床経過、診断等基礎知識について理解できる。 3)がん患者の特徴と看護について理解できる。 4)緩和ケアの概念を理解し、提供方法について知識と技術を理解できる。 5)終末期の概念を理解し、看護実践について必要な知識と技術を理解できる。					
授業の概要		がん看護・緩和ケア・終末期看護について基礎知識を学修し、対象者と家族への看護援助について理解する。 終末期にある対象の看護過程を展開し、終末期における対象者と家族への援助を理解する。					
成績評価		科目の内容ごとに試験を行い総合的に評価する。					
教科書等		小松浩子他 :成人看護学[1] 成人看護学総論(医学書院) 浅野浩一郎他:成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院) 飯野京子他 :成人看護学[4] 血液・造血器 (医学書院) 南川雅子他 :成人看護学[5] 消化器 (医学書院) 今井亜矢子他:成人看護学[8] 腎・泌尿器(医学書院) 末岡浩他 :成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院) 矢永勝彦他 :別巻 臨床外科看護各論 (医学書院) 恒藤暁他 :別巻 緩和ケア (医学書院) 小松浩子他 :別巻 がん看護学 (医学書院) 【参考書】経過別看護過程の展開(学研) 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第4版(学研)					
自己学習		広範囲ではあるがテキストを熟読する。					
留意事項(持参品等)							

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		成人看護学援助論Ⅴ (終末期:血液・造血器・女性生殖器・泌尿器・呼吸器)				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
教員名		後藤直美(1～5回)、妹尾里美(6～8、12～14回)、坂本聡子(9～11回)					
授業計画(授業内容)	第1～5回 1.終末期にある患者・家族の特徴						
	後藤	1)終末期の医療の現状(がん医療と看護、緩和ケアと提供方法)					
		2)全人的苦痛(身体的、精神的、社会的、霊的)					
		2.終末期看護の特徴					
		3.終末期看護に適用される理論・モデル (キューブラ・ロスの「死にゆく過程」)					
		1)死の受容過程					
		2)悲嘆					
		4.終末期にある患者・家族への援助					
		1)苦痛の緩和					
		(1)疼痛					
		(2)その他の症状					
		2)死の看取り					
		3)死後のケア					
		第6～8回 5.終末期の呼吸機能障害のある患者の看護					
	妹尾	1)肺がん患者の看護					
		(1)症状に伴う看護(咳嗽)					
		(2)検査、治療を受ける患者の看護					
		第9～11回 6.終末期の身体防御機能障害のある患者の看護					
	坂本	1)白血病・悪性リンパ腫患者の看護					
		(1)症状に伴う看護(貧血、出血傾向)					
		(2)検査、治療を受ける患者の看護					
		(骨髄穿刺、化学療法)					
		第12～13回 7.終末期の性・生殖器機能障害のある患者の看護					
	妹尾	1)子宮がん・卵巣腫瘍患者の看護(泌尿器も含む)					
		(1)症状に伴う看護(性器出血)					
		(2)検査、治療を受ける患者の看護					
	(子宮全摘出後の看護、内診、放射線療法)						
	第14回 8.終末期の消化・吸収機能障害のある患者の看護						
	1)すい臓がん患者の看護						
	第15回 まとめ、試験						

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		老年看護学援助論Ⅰ（健康維持の看護）				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		岡本 和恵					
授業目的		高齢者の健康段階に応じた看護の概要を理解し、ヘルスアセスメントについて理解できる。また、高齢者の自立支援・介護予防の概念、支援に関する要素を理解し、生活の場における看護援助を理解する。					
到達目標		1) 高齢者の生理的特徴(老化に伴う機能低下)、老年症候群について理解できる。 2) 高齢者の健康状態の把握とヘルスアセスメントが理解できる。 3) 高齢者の生活機能を整え、老化や疾病と共存しながら、健康維持につながる看護に必要な知識を学ぶ。					
授業の概要		高齢者の生理的な特徴、老年症候群の特徴を理解し、看護に必要な知識を身につける。					
成績評価		演習レポート(20%) 定期試験(80%)で総合的に評価する。					
教科書等		北川公子他: 老年看護学[1] 老年看護学(医学書院) 鳥羽研二他: 老年看護学[2] 老年看護 病態・疾患論(医学書院)					
自己学習		老年看護学概論の復習をする。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	高齢者の生理的特徴(老化に伴う機能低下)②1章				
		第2回	老年症候群の特徴と症候(フレイル、サルコペニア)②2章				
		第3回	老年症候群 急性・慢性疾患に付随する症候				
		第4回	老年症候群 おもにADL低下に合併する徴候				
		第5回	高齢者のヘルスアセスメント① ②3章				
		第6回	高齢者のヘルスアセスメント② ②6章				
		第7回	機能低下予防、介護予防、体力低下を予防、健康維持を促す看護③(ヘルスアセスメント演習)				
		第8回	高齢者の生活機能を整える看護① ①5章				
		第9回	高齢者の生活機能を整える看護②				
		第10回	高齢者の生活機能を整える看護③				
		第11回	高齢者の生活機能を整える看護④				
		第12回	機能低下予防、介護予防、体力低下を予防、健康維持を促す看護① 発熱・痛み・掻痒・脱水・嘔吐・浮腫・倦怠感・褥瘡				
		第13回	機能低下予防、介護予防、体力低下を予防、健康維持を促す看護②				
		第14回	機能低下予防、介護予防、体力低下を予防、健康維持を促す看護③				
		第15回	高齢者のヘルスプロモーション ①9章 高齢者の健康維持のためのリハビリテーション p372サービス付高齢者向け住宅				
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		老年看護学援助論Ⅱ（健康障害時の看護）				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		渡邊 栄子					
授業目的		高齢者の各健康段階における看護の特徴を踏まえて、高齢者によくみられる疾患、検査、治療について、特徴や問題を理解し、看護の知識を修得する。 高齢患者の状態をアセスメントし、看護過程の展開が理解できる。 高齢者の暮らしを守るための多職種連携・協働の必要性が理解できる。					
到達目標		1) 高齢者特有の疾患の看護及び、家族看護が理解できる。 2) 認知機能に障害のある高齢者について理解できる。 3) 老人保健法や保健医療制度・介護保険等の法律が理解できる。 4) 高齢者の暮らしを守るための多職種連携・協働の必要性が理解できる。 5) 高齢患者の状態をアセスメントし、看護過程の展開が理解できる。					
授業の概要		高齢者の健康障害と疾患について理解し、看護に必要な知識を身につける。 認知機能の障害に対する知識やコミュニケーション技術を理解する。 在宅、保健医療福祉施設における看護を学修し、介護を必要とする高齢者とその家族、終末期の看護を理解する。					
成績評価		演習レポート(30%)、定期試験(70%)で総合的に評価する。					
教科書等		鳥羽研二他: 老年看護学[2] 老年看護 病態・疾患論(医学書院) 【参考書】堀内ふき他: ナーシング・グラフィカ 老年看護学(2) 高齢者看護の実践(メディカ出版)					
自己学習							
留意事項(持参品等)							

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		老年看護学援助論Ⅱ（健康障害時の看護）				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		渡邊 栄子					
授業計画（授業内容）	第1回	高齢者の受けることの多い検査と看護 ②3章 栄養ケア・マネジメント、入院治療をうける看護					
	第2回	薬物療法と看護 手術療法と看護 ①7章 高齢者のリハビリテーション					
	第3回	認知機能の障害に対する看護 ①6章 （うつ・せん妄・認知症・ユマニチュード方法）					
	第4回	疾患を持つ高齢者への看護 ①6章、② （脳出血・パーキンソン病・ALS・逆流性食道炎・ 前立腺肥大症・尿路感染・疥癬・ノロウイルス・ インフルエンザ・加齢黄斑変性症）					
	第5回	治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護					
	第6回	介護・医療ニーズの高い在宅高齢者への看護					
	第7回	療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴と看護 ①9章					
	第8回	高齢者とリスクマネジメント ②10章					
	第9回～	疾患を持つ高齢者への看護過程					
	第11回	【事例】骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折・白内障・難聴 個人ワーク・GW（アセスメント・全体像）					
	第12回	グループ発表					
	第13回	グループ発表					
	第14回	エンドオブライフケアと生ききることを支えるケア					
	第15回	試験					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		老年看護学援助論Ⅲ(看護技術)				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		坂本聡子(1.5.6.7回)4コマ、加藤仁見(2～4回)3コマ					
授業目的		健康障害をもつ高齢者の日常生活の確立に向けて、高齢者の特徴をふまえた高齢者の看護技術について学ぶ。					
到達目標		1) 高齢者への看護技術の特徴について理解できる。 2) 高齢者の日常生活援助技術を習得する。					
授業の概要		既習の各看護学や基礎看護技術を想起しながら、予備力、適応力の低下した高齢者に対する看護技術について学ぶ授業である。臨地実習で実施する機会の多い看護技術などの校内実習である。					
成績評価		定期試験、演習、レポート、授業参加状況を総合して評価する。					
教科書等		鳥羽研二他: 老年看護学[2] 老年看護 病態・疾患論(医学書院) 【参考書】堀内ふき他: ナーシング・グラフィカ 老年看護学(2) 高齢者看護の実践(メディカ出版)					
自己学習							
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	1. 高齢者への看護技術の特徴				
			1) 高齢者の自立とセルフケアを支援する看護技術				
			2) 高齢者のQOLを支援する看護技術				
			3) 安全性・安楽性・効率性をめざす技術				
			4) 認知症高齢者への看護技術				
		第2.3回	2. 高齢者の日常生活援助技術				
		加藤	1) 嚥下障害に対する看護技術				
			(1) 嚥下補助食品				
			(2) 嚥下訓練				
			(3) 経管栄養法ーPEG・経鼻胃チューブ挿入・吸引				
		第4回	2) 口腔ケアー誤嚥リスクのある患者の口腔ケア				
		加藤	義歯の取り扱い				
		第5回	3) 尿失禁ケア				
			(1) 骨盤底筋群体操				
		第6回	4) 廃用症候群予防における看護				
		第7回	5) 褥瘡の予防とケア…高齢者のスキンケアの基本				
			6) 転倒転落予防における看護				
		第8回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		小児看護学概論				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		二宮 千春					
授業目的		現代の児童観をしっかりと捉え、小児及び家族の健康上の課題や現代社会における小児と家族の問題について理解する。 また、健康な小児や家族の成長・発達の支援に求められる養育・看護について知識と技術を学修する。					
到達目標		1)小児看護学の対象及び役割を理解できる。 2)小児の発達過程の特徴を理解できる。 3)小児の育成に関する社会制度について理解できる。					
授業の概要		小児看護の対象、小児医療、看護の変遷、現代社会における小児看護の課題について理解する。 小児看護で重要な子どもの人権について学び、看護の倫理問題について理解する。小児保健の動向に関する知識を得て、ライフサイクルにおける小児期の健康問題を捉え、各発達段階別の小児看護の役割を理解する。 小児の育成に関する社会制度について保健・医療・福祉・教育の視点から学び、発達期にある小児及び家族支援について理解する。					
成績評価		小テストおよび定期試験で総合的に評価する。					
教科書等		奈良間美保他：小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院） 国民衛生の動向2023/2024（厚生労働統計協会）					
自己学習		授業前後の予習・復習を行う。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	小児看護の特徴と理念				
		第2回	子どもの成長・発達				
		第3回	新生児期・乳児期				
		第4回	乳児期				
		第5.6回	幼児期				
		第7回	学童期				
		第8回	思春期・青年期				
		第9回	家族の特徴とアセスメント				
		第10回	子どもと家族を取り巻く社会				
		第11～13回	小児保健				
		第14.15回	子どもに起こりやすい事故と看護				
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		小児の健康障害と看護				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		三谷 納					
授業目的		小児が罹患しやすい疾患について、機能系統別に理解し、小児の疾病と治療の特徴について理解する。					
到達目標		1)小児の身体的特性が理解できる。 2)小児の主な疾患について基礎的知識が理解できる。					
授業の概要		各疾患の病態・症状・診断・治療について理解する。 主に先天性代謝異常、内分泌・アレルギー疾患、呼吸器・循環器・消化器、小児がん、腎・泌尿器、神経疾患、精神疾患を学び、看護の必要性について理解する。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		奈良間美保他：小児看護学[2] 小児臨床看護各論(医学書院)					
自己学習		小児の特性を踏まえて疾患との関連付けをする。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	1～4章	先天性代謝異常及び新生児に関連した疾患、代謝性・内分泌疾患			
		第2回	5～6章	免疫・アレルギー・リウマチ疾患、感染症			
		第3回	7～8章	呼吸器・循環器疾患			
		第4回	9章	消化器疾患			
		第5回	10～11章	血液・腫瘍性疾患			
		第6回	12章	腎・泌尿器疾患			
		第7回	13～19章	神経疾患・精神疾患など			
		第8回	まとめ、試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		小児看護学援助論Ⅰ（健康障害時と看護）				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		茶木 五月(1～6、8、9～14回) 妹尾 里美(7回)					
授業目的		疾病や症状が小児や家族に与える影響を理解し、小児看護に必要な看護実践方法を学ぶ。また、疾病を持つ小児と家族の看護について、病態と発達段階の側面から成長発達を踏まえた看護実践方法について学修する。					
到達目標		1)健康障害のある小児の特徴と看護が理解できる。 2)小児の発達段階・過程、健康状態に応じた看護が理解できる。					
授業の概要		健康を障害されることによる小児および家族への影響、小児の成長発達、健康状態の経過に応じた看護、様々な状況にある小児と家族への看護について理解する。 また、小児に対するコミュニケーション技法を学び、フィジカルアセスメントを活用した観察法、治療、処置別看護について学ぶ。					
成績評価		小テスト、課題レポート、定期試験の総合評価とする。					
教科書等		奈良間美保他：小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 奈良間美保他：小児看護学[2] 小児臨床看護各論（医学書院）					
自己学習		小児看護技術第2版 、小児看護過程第3版 医学書院を参考にする 事前に教科書をよく読んで授業に臨む。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	病気・障害を持つ子どもと家族の看護				
		第2回	子どもの状況や疾病の経過に特徴づけられる看護				
		第3回	子どものアセスメント				
		第4回	小児のバイタルサイン測定、身体計測				
		第5回	症状を示す子どもの看護				
		第6回	症状を示す子どもの看護				
		第7回	子どもの虐待と看護(妹尾)				
		第8回	障害のある子どもと家族の看護				
		第9回	子どもの健康障害と看護：染色体異常、先天異常				
		第10回	子どもの健康障害と看護：先天性代謝異常、代謝性・内分泌性疾患				
		第11回	子どもの健康障害と看護：免疫・アレルギー・リウマチ疾患、感染症				
		第12回	子どもの健康障害と看護：呼吸器・循環器疾患と看護、消化器疾患				
		第13回	子どもの健康障害と看護：血液・腫瘍性疾患				
		第14回	子どもの健康障害と看護：腎・泌尿器疾患と看護、神経疾患等				
		第15回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		小児看護学援助論Ⅱ（看護技術）				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		茶木 五月					
授業目的		小児各期の成長発達に合わせた看護を実践する。また、成長発達を踏まえ、さらに家族看護の視点から看護の過程を理解する。					
到達目標		1)小児およびその家族を支援する援助技術が実践できる。 2)小児の成長発達と家族を踏まえた看護の過程が理解できる。					
授業の概要		小児への看護技術の演習を行う。 さらに、小児の経過別看護の知識及び演習をもとに発達期別の看護の過程について理解する。					
成績評価		課題レポート、定期試験の総合評価とする。					
教科書等		奈良間美保他：小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 奈良間美保他：小児看護学[2] 小児臨床看護各論（医学書院）					
自己学習		小児看護技術第2版 、小児看護過程第3版 医学書院を参考にする					
留意事項（持参品等）		技術については基礎看護学で学んだことを基本にし、小児の特徴を加味して行う。					
授業計画（授業内容）		第1回	検査・処置を受ける子どもの看護				
		第2回	看護技術：バイタルサイン測定、身体測定				
		第3回	治療援助技術：固定、吸入・吸引・酸素療法				
		第4回	治療援助技術：保育器管理、排泄管理、与薬、輸液管理				
		第5回	小児看護の過程				
		第6回	小児看護の過程				
		第7回	看護の過程、事例演習計画				
		第8回	看護の過程：事例演習実施				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		母性看護学概論				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		島村 ひと美					
授業目的		母性看護の基盤となる概念から母性看護の対象をとらえ、母性の特性を学び、母性看護の機能と役割について理解する。					
到達目標		1) 母性の特性を知り、母性看護の理念および対象を理解する。 2) 母性看護の意義と役割を理解する。 3) 人間の性と生殖を知り、性の発達と性行動に関連した健康問題を考える。 4) 女性のライフサイクル各期における健康に影響を及ぼす諸因子を知り、母性看護の現状と動向を理解する。 5) 女性のライフサイクル各期に応じた健康の維持・増進・疾病予防のための看護を理解する。 6) 生命の尊厳や生命倫理について考え、看護者としての役割を理解する。					
授業の概要		母性看護の基盤となる概念、対象者の特性を理解し、対象者を取り巻く社会の変遷と現状を把握し、母性看護に必要な看護技術や役割と課題を理解する。さらに女性のライフステージ各期における看護を理解する。またリプロダクティブヘルスの視点から母性看護の健康問題とそのケアを学ぶ。さらに次世代育成のためのヘルスプロモーションに対する看護への理解ができる。					
成績評価		課題・グループワーク・小テストの成果(30%)・定期試験(70%)の総合評価とする。					
教科書等		森恵美他:母性看護学[1] 母性看護学概論(医学書院) 【参考書】国民衛生の動向(厚生労働統計協会)					
自己学習		教科書の付録にある関係法規の抄録を読み理解する。グループワーク前には十分な自己学習をして臨むこと。					
留意事項(持参品等)		第14回講義終了後は母性看護の学びをレポートし、第15回試験日の始業前に提出とする。					
授業計画(授業内容)		第1回	母性とは 母子関係と家族発達	講義			
		第2回	セクシュアリティ リプロダクティブヘルス・ライツ ヘルスプロモーション	講義			
		第3回	母性看護における倫理、安全、事故防	講義			
		第4回	母性看護の対象者を取り巻く環境	講義			
		第5回	母性看護に関わる法律、施策	講義			
		第6回	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化	講義	小テスト		
		第7回	女性のライフサイクルと家族	講義			
		第8回	母性看護における看護過程	講義			
		第9回	女性のライフステージ各期の看護 思春期・性成熟期	講義			
		第10回	更年期・老年期	講義	小テスト		
		第11.12回	リプロダクティブヘルスケア	グループワーク			
		第13.14回	G・W発表	発表、講義			
		第15回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		女性の健康障害と看護				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		青江 尚志					
授業目的		妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の異常と看護について学び、また、女性生殖器疾患の看護を理解する。					
到達目標		1) 女性生殖器の構造と機能が理解できる。 2) 不妊及び妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の異常が理解できる。 3) 女性特有の疾患について理解できる。					
授業の概要		不妊及び妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の異常を含め、母性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病予防を目的とし、主に女性生殖器に関連した疾患を理解する。 それぞれの疾患の特徴から看護展開に必要な知識、技能について理解する。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		森恵美他:母性看護学[2] 母性看護学各論(医学書院) 末岡浩他:成人看護学[9] 女性生殖器(医学書院)					
自己学習		既習学習と関連させて統合できるよう予習・復習を行う。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	不妊症と看護				
		第2回	妊娠期・分娩期の異常と看護				
		第3回	妊娠期・分娩期の異常と看護				
		第4回	産褥期の異常と看護				
		第5回	新生児期の異常と看護				
		第6回	女性生殖器疾患(子宮筋腫・卵巣嚢腫・子宮内膜炎他)				
		第7回	女性生殖器のがん疾患(子宮頸がん・子宮体癌・卵巣がん)				
		第8回	まとめ、試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		母性看護学援助論Ⅰ（正常経過時の看護）				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		島村ひと美(7回) 今岡みどり					
授業目的		妊娠・分娩・産褥・新生児の正常の看護を理解する。 また、正常な妊産婦の経過と正常な新生児を家族とともに総合的にアセスメントし看護援助を修得する。					
到達目標		1) 妊娠のメカニズム、分娩、産褥、新生児の身体的変化及び正常な経過が理解できる。 2) 正常に経過する妊娠・分娩・産褥・新生児期における看護について理解できる。					
授業の概要		少子高齢化に伴う社会背景を踏まえながら、女性の健康支援の一部である周産期を中心に、身体的・心理的・社会的変化を理解し、看護について学修する。 妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の正常な経過を知り、理解することが出来る。 その上で妊娠から分娩、産褥にわたり、連続的な継続看護を学ぶ。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		森恵美他:母性看護学[2] 母性看護学各論(医学書院) 【参考図書】 前原澄子:看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ・Ⅱ(中央法規) 太田操:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程(医歯薬出版)					
自己学習		「小児の健康障害と看護」、「母性看護学概論」、「女性の健康障害と看護」を復習する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1～3回 1.正常経過の妊婦の看護					
		1) 妊娠の成立(ホルモン動態含む)					
		2) 妊娠の経過					
		3) 胎児心拍数モニタリング					
		(胎児心拍数図の判読とその意義)					
		4) 妊婦の心理・社会的特徴、妊婦健康診査					
		5) マイナートラブル、日常生活指導、保健相談					
		6) 親になるための準備教育、バースプラン					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		母性看護学援助論Ⅰ（正常経過時の看護）				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		島村ひと美 今岡みどり					
授業計画（授業内容）		第4～7回 2.正常経過の産婦の看護					
		1)分娩の3要素と分娩の経過					
		2)分娩第1～4期における看護					
		3)安全・安楽のニード、基本的ニードに対する看護					
		4)分娩経過図（パルトグラム）					
		第8～9回 3.正常経過時の褥婦の看護					
		1)産褥経過、進行性変化及び退行性変化					
		2)褥婦の心理・社会的特徴					
		（母親への適応過程：ルービン）					
		3)親子関係確立に向けた援助					
		4)育児技術習得に向けた援助					
		第10～12回 4.正常経過をたどる褥婦の看護（看護過程の展開）					
		1)身体機能の回復および母乳栄養確立に向けた褥婦の看護					
		（全身の回復・子宮復古・授乳・母親役割獲得過程など）					
		第13.14回 5.正常経過の新生児の看護					
		1)新生児の生理的特徴・アセスメント					
		2)出生直後から退院までの看護					
		第15回 試験					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		母性看護学援助論Ⅱ (異常時の看護・看護技術)				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		島村ひと美(7回) 今岡みどり					
授業目的		1.周産期における妊婦・産婦・褥婦・新生児の正常と比較し、異常時の看護を理解する。 2.母性看護に必要な看護技術を修得する。					
到達目標		1)妊娠・分娩期・産褥期・新生児期の各期に必要な看護技術が理解できる。 2)異常経過にある褥婦の看護アセスメントが理解できる。					
授業の概要		少子高齢化に伴う社会背景を踏まえながら、女性の健康支援の一部である周産期を中心に、身体的・心理的・社会的変化を理解し、看護について学修する。 妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の正常な経過を知り、各期で起こる異常も理解する。 さらに各期における保健指導やセルフケアの指導及び看護技術を演習を通して身につける。					
成績評価		課題・演習レポート(50%)・ 定期試験(50%)の総合評価とする。					
教科書等		森恵美他:母性看護学[2] 母性看護学各論(医学書院) 【参考図書】 前原澄子:看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ・Ⅱ(中央法規) 太田操:ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程(医歯薬出版)					
自己学習		「小児の健康障害と看護」、「母性看護学概論」、「女性の健康障害と看護」を復習する。					
留意事項(持参品等)		演習は実習室2で行い、実習と同様な服装とする。 変更が予測されますので事前の連絡に注意する。					
授業計画(授業内容)		第1.2回	1.妊婦・産婦に必要な看護技術【演習】				
			1)観察法				
			(1)児心音聴取				
			(2)胎児心拍数モニタリング(NST、CTG)の意義と判読				
			(3)レオポルド触診法				
			(4)腹囲、子宮底の測定				
			(5)着帯及び妊婦体験				
			(6)栄養指導				
		第3回	2)保健指導(事例展開)				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		母性看護学援助論Ⅱ (異常時の看護・看護技術)				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		島村ひと美(7回) 今岡みどり					
授業計画(授業内容)		第4回	2.褥婦に必要な看護技術				
		～第7回	1)進行性変化に対する看護(乳房のタイプⅡ)				
			2)退行性変化に対する看護				
			(1)子宮底の測定子宮底輪状マッサージ				
			(2)初回歩行				
			3)育児指導				
			(1)沐浴、寝衣交換(校内実習)				
			(2)清拭(校内実習)				
			(3)人工乳と排気				
			(4)乳房の管理(乳房のタイプⅠ)				
			3.新生児の生命維持・観察技術				
			1)出生直後の看護				
			2)全身の観察、バイタルサイン測定、計測				
		第8～10回	4.異常妊娠の看護(切迫流早産、妊娠高血圧症候群など)				
			5.異常分娩の看護				
			(前期破水、分娩遷延、分娩時の異常出血など)				
			6.異常産褥の看護(産褥熱、乳腺炎など)				
			7.異常新生児の看護(低出生体重児、黄疸など)				
		第11～14回	8.異常経過をたどる褥婦の看護(看護過程の展開)				
			1)帝王切開術で分娩した褥婦の看護				
			(帝王切開による母児への影響など)				
			第15回	試験			

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		精神看護学概論				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		水越 スミコ					
授業目的		現代社会と精神医療・看護の諸問題を踏まえて、精神の健康、健康障害の概念を学び、ライフサイクルと生活の場における精神保健と支援のあり方について理解する。					
到達目標		1)現代社会と精神医療・精神の健康について理解できる。 2)ライフサイクルと精神保健の支援について理解できる。 3)精神保健福祉の沿革と歴史について理解できる。 4)精神科医療・看護における倫理の重要性を理解できる。					
授業の概要		精神の健康増進、疾病の予防、疾病からの回復に当たる生活を支援する活動を理解する。現代社会が抱える、心の問題や成長に伴う心の変化について理解し、心の健康について理解を深める。精神の健康を取り戻すための援助を必要としている人と、その家族を看護の対象とする精神看護の目的や機能、実践をささえる方法論を理解する。さらに精神保健福祉に関する背景を学び、精神保健看護の機能と役割を理解する。					
成績評価		課題20%、定期試験80%の総合評価とする					
教科書等		武井麻子他:精神看護学[1] 精神看護の基礎(医学書院) 武井麻子他:精神看護学[2] 精神看護の展開(医学書院)					
自己学習		教科書を事前に読んでおく。					
留意事項(持参品等)		精神の健康に関して身近な問題から関心を持ち、主体的に学ぶ姿勢で参加する。					
授業計画(授業内容)		第1回	精神看護学に関する主なモデルの概観				
		第2回	パーソナリティの発達と適応				
		第3回	精神の機能と障害				
		第4～5回	ライフステージにおける発達課題				
		第6～7回	現代社会の特徴と社会病理				
		第8回	精神保健福祉法の位置づけと歴史的変遷				
		第9回	精神保健福祉法				
		第10回	行動制限と人権擁護				
		第11回	看護における倫理				
		第12回	地域精神保健活動の目標				
		第13回	地域精神保健に関する制度と施設				
		第14回	精神疾患患者のリハビリテーション				
			地域精神保健活動の実際				
		第15回	まとめ、試験				
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		心の健康障害と看護				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		日笠 哲					
授業目的		精神医療を学び、精神の健康障害について、看護に関する基本的な知識、病態、検査、治療について理解する。					
到達目標		1)精神障害者の捉え方が理解できる。 2)精神障害の種類や病態生理・症状・検査・治療方法を理解できる。 3)精神障害のある方への看護の必要性が理解できる。					
授業の概要		「精神障害とは」を理解し、代表的な疾患の病態・症状・検査・治療について学び、看護に必要な基礎を理解する。 精神障害者の捉え方、かかわり方についても理解する。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		武井麻子他:精神看護学[1] 精神看護の基礎(医学書院)					
自己学習		用語等は事前に調べておく。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	精神症状論と状態像				
		第2回	精神障害の診断と分類				
		第3回	統合失調症と看護				
		第4回	神経症性障害・ストレス関連障害・生理的障害と看護				
		第5回	器質性精神障害と看護				
		第6回	精神科治療・薬物療法・精神療法・環境療法と看護				
		第7回	社会のなかの精神障害・精神障害と法制度				
		第8回	まとめ、試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		精神看護学援助論Ⅰ（精神障害時の看護）				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		川原 順子					
授業目的		精神看護の特徴や役割について学び、精神科医療・身体ケアの意義、看護に活用する技法など看護援助を修得する。					
到達目標		1)精神看護の特徴や役割が理解できる。 2) 精神障害の状態に応じた援助関係を形成する方法を理解できる。 3)精神機能や治療過程・生活支援に必要な知識・技術が理解できる。 4)精神疾患患者への看護援助の基本が理解できる。					
授業の概要		心の健康を維持する対人関係の展開について学ぶ。さらに看護師と患者関係の成り立ち・発展過程、精神保健看護の展開方法と技術について学ぶ。精神疾患患者を取り巻く医療的環境と対象者の理解を深め、健康障害の状態に応じた援助方法や援助関係を形成するための方法を考察する。具体的には精神症状、精神状態像、神経症状を理解し、精神機能や治療過程、生活面の理解を通して看護を実践する基礎的能力を身につける。					
成績評価		課題(グループワーク貢献度)など20%、終講試験80%の総合評価とする。					
教科書等		武井麻子他:精神看護学[1] 精神看護の基礎(医学書院) 武井麻子他:精神看護学[2] 精神看護の展開(医学書院) 【参考図書】 川野雅資:看護観察のキーポイントシリーズ精神科Ⅰ、Ⅱ(中央法規)					
自己学習		教科書を事前に読んでおく。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	援助関係の構築(原則・方法・関係のアセスメント)				
		第2回	こころの構造と防衛機制				
		第3回	プロセスレコードの活用				
		第4回	患者－看護師関係における感情体験				
		第5回	回復を助ける				
		第6回	入院と治療				
		第7回	精神科の医療安全(緊急事態・災害時のリスクマネジメント)				
		第8回	行動制限				
		第9回	精神科における身体をケアする				
		第10回	認知症の看護①				
		第11回	認知症の看護②				
		第12回	家族への援助				
		第13回	生活を支えるための社会資源・サービス				
		第14回	リエゾン精神看護				
		第15回	まとめ、試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		精神看護学援助論Ⅱ（看護過程）				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		川原 順子					
授業目的		精神疾患患者への看護を事例を通して展開する方法を修得する。					
到達目標		精神疾患患者への看護援助の基本を踏まえて、看護過程の展開が理解できる。					
授業の概要		精神看護学援助論Ⅰで学んだ内容を活用して、事例の看護過程の展開をグループワークを通して学ぶ。					
成績評価		課題（グループワーク貢献度）など60%、終講試験40%の総合評価とする。					
教科書等		武井麻子他:精神看護学[1] 精神看護の基礎(医学書院) 武井麻子他:精神看護学[2] 精神看護の展開(医学書院) 【参考図書】 川野雅資:看護観察のキーポイントシリーズ精神科Ⅰ、Ⅱ(中央法規)					
自己学習		既習学習の看護過程の復習と精神看護学の既習内容が想起できるように復習しておく。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	精神看護の看護過程・情報の整理・アセスメント				
		第2回	精神看護の主な症状アセスメント			GW	
		第3回	病態関連図と患者の全体像①			GW	
		第4回	病態関連図と患者の全体像②			GW	
		第5回	目標設定と看護計画①			GW	
		第6回	関連図・看護計画の発表				
		第7回	関連図・看護計画の発表・まとめ				
		第8回	本試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		医療安全と看護Ⅰ（医療安全の基礎）				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		岡本 和恵					
授業目的		医療安全を学ぶことの意義を理解し、看護マネジメントの要素に含まれる医療安全と看護事故防止の実際について学ぶ。					
到達目標		1)医療安全について人間のエラーのメカニズムを理解し、専門職業人として事故防止の責務が理解できる。 2)医療・看護における事故の概念及び構造及び事故防止の考え方が理解できる。 3)事故分析の意義と手法が理解できる。 4)患者の日常生活上及び、診療の補助における危険予知について理解できる。 5)医療におけるリスクマネジメントを理解できる。					
授業の概要		人間のエラーの特性を踏まえて、医療事故防止の考え方、医療事故分析法、看護事故防止の実際について具体的に知識と技術を学び、看護師の事故防止の責任と役割について理解する。 KYTを通して、危険回避行動について学ぶ。基礎看護学実習Ⅱに向けて、対象の安全を守る看護について具体的に考える。					
成績評価		確認レポート(20%)定期試験(80%)					
教科書等		川村治子他:看護の統合と実践[2] 医療安全(医学書院)					
自己学習		医療・看護に関する社会的ニュース(新聞他)に関心を持つ。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1～2回		1.ヒューマンエラーの概念（メカニズム・要因） 2.医療職の安全努力の責務・インシデント・アクシデント			
		第3～4回		1.事故防止の考え方(医療事故と看護業務) 2.看護事故の構造と考え方 3.事故分析と対応(事故分析法)、事例による事故分析			
		第5～7回		危険予知訓練(KYT)の実践 1)日常生活に潜む危険 2)診療の補助技術における事故			
		第8回		まとめ、試験			

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		医療安全と看護Ⅱ（看護実践と医療安全）				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		岡本 和恵					
授業目的		医療安全上の看護職の法的規定と業務領域を超えて共通する間違いと発生要因及び、労働安全衛生上の事故防止について学ぶ事によって、安全に看護実践をする為の、危険の認知力や危険回避の判断力について学ぶ。 また、諸外国の医療安全対策を知り、グローバルな課題としての国際的連携について学ぶ。					
到達目標		1) 医療安全上の看護職の法的規定が理解できる。 2) 医療安全への取り組みと医療の質の評価について理解できる。 3) 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因が理解できる。 4) 労働安全衛生上の事故防止が理解できる。 5) 看護学生の実習と安全が理解できる。 6) 諸外国の医療安全対策と国際的連携について理解できる。					
授業の概要		医療事故防止の考え方や看護事故防止の実践について、自己の臨地実習体験を既習の知識と技術を活用して分析することで看護師の事故防止の責任と役割について考える。 危険予知・危険回避の判断と実践について具体的に考える。					
成績評価		定期試験(50%)・演習参加状況及びレポート課題(50%)					
教科書等		川村治子他:看護の統合と実践[2] 医療安全(医学書院) 【参考図書】ナースング・グラフィカ 医療安全					
自己学習							
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	1.医療安全上の看護職の法的規定				
			2.医療安全への取り組みと医療の質の評価				
		第2回	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因				
		第3回	労働安全衛生上の事故防止				
		第4回	事故分析による危険予知・危険回避の判断と安全な看護実践				
		第5回	組織的な安全管理体制への取り組み				
		第6回	看護学生の実習と安全				
		第7回	諸外国の医療安全対策と国際的連携				
		第8回	まとめ、試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		臨床看護のリフレクション				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		2年生の教員					
授業目的		臨地実習の経験をリフレクションし、経験から自己の実践の意味を考察し、次の臨地実習に活かせるよう学ぶ。リフレクションには、ギブズのリフレクティブサイクルを用い、事実を「記述・描写」し、その際の「感情」に向き合い、「評価」「分析」し、「総合」では、自身や他者に何ができたのかを導き出し「行動計画」で具体化する5つの基本的スキルを身に付ける。体験を振り返り意味づけ、不具合の改善および、良好な看護実践の再現性を高めることで学習意欲の向上、学習行動へとつなげていく。					
到達目標		1. リフレクションの手段として、ギブズのリフレクティブサイクルの5つの基本的スキルを身に付ける。 2. 臨地実習の経験をリフレクションし、経験から自己の実践の意味を考察し、次の臨地実習に向けた自己の課題を行動目標化できる。 3. 看護専門職として、看護実践を振り返る意義、責任を自覚し、不具合の改善と良好な看護実践を再現する姿勢を身に付ける。					
授業の概要		実習経験をギブズのギブズのリフレクティブサイクル5つの「記述・描写」「感情」「評価」「分析」「総合」の視点を入れた振り返り用紙を用い個人で記述し、自身の感情に向き合い、「評価」「分析」「総合」する。担当教員と振り返り、修正を行ったうえでグループワークを行う、意見交換を行う。グループワーク発表後の学びをまとめ、次の臨地実習に向けた自己の行動計画、行動目標をあげる。					
成績評価		客観テストおよび、ギブズのリフレクティブサイクル振り返り用紙の記述内容、対話によって評価する。					
教科書等		基礎看護技術Ⅰ 医学書院 配布資料					
自己学習		1年次に行った臨地実習リフレクションを見直しておく。					
留意事項(持参品等)		実習記録、リフレクション用紙、ギブズのリフレクション資料					
授業計画(授業内容)		第1回 専門職として看護実践をリフレクションする意義・責任と方法の理解 臨地実習でのリフレクション(基礎看護学実習Ⅱ) 個人ワーク 「記述・描写」「感情」「評価」「分析」「総合」の記述					
		第2回 臨地実習でのリフレクション 教員とのリフレクション 「記述・描写」からの「感情」の表出「評価」「分析」 成功したこと失敗したことの意味づけ、「総合」の見直し					
		第3～5回 臨地実習でのリフレクション グループワーク リフレクションで得られた実践の看護としての意味のグループ共有					
		第6～10回 臨地実習でのリフレクション グループワーク発表と個人ワーク GW:リフレクションで得られた実践の看護としての意味のクラス共有 個人W:リフレクションでの学びのまとめと「総合」の見直し と行動計画・行動目標の具体化					
		第11～15回 臨地実習でのリフレクション (成人・老年看護学実習Ⅲ認知機能障害のある対象者の看護)					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）				専門分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	2単位	時間数	90時間
担当教員		2年生の教員					
授業目的		看護の対象である患者の全体像を理解し、看護過程が展開できる基礎的能力を養う。					
到達目標		1)療養生活をしている対象者を理解できる。 2)看護過程に沿って看護計画立案・実施・評価ができる。 3)自己の看護実践能力を評価できる。 4)対象者の権利擁護および看護職としての倫理的配慮ができる。 5)実習体験を通じて看護に対する考えを深めることができる。					
授業の概要		各実習施設の病棟看護責任者および指導者、教員の指導・援助のもとに実施する。 実習病院、実習病棟および受け持ち患者について、オリエンテーションを受け、受け持ち患者を中心に看護の展開方法を理解する。					
成績評価		全出席とする。実習評価表により評価する。					
教科書等		関連した教科書および参考書、授業資料					
自己学習		実習開始までに指定した事前学習と学内演習に取り組む。					
留意事項(持参品等)		実習要項を参照する。					
授業計画(授業内容)		患者の健康状態を理解し、患者の特徴をとらえた看護過程の展開を行う。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		成人・老年看護学実習Ⅲ (認知機能障害のある対象の看護)				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		後藤 直美 川原順子					
授業目的		認知機能障害がもたらす影響を理解し、対象に必要な看護を実践する基礎的な能力を養う。					
到達目標		1) 認知機能障害のある対象者が理解できる。 2) 認知症のある対象者の生活機能評価、尊厳に基づいた、看護を実践できる。					
授業の概要		認知症のある対象者の看護を展開について理解する。					
成績評価		全出席とする。実習評価表により評価する。					
教科書等		関連した教科書および参考書、授業資料					
自己学習		実習開始までに指定した事前学習と学内演習に取り組む。					
留意事項(持参品等)		3年次に実習と実習評価する。					
授業計画(授業内容)		1.認知症のある対象者の看護を展開する。					
		2.実習要項を参照する。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		老年看護学実習				専門分野	
学年	2年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	45時間
担当教員		後藤 直美 川原 順子					
授業目的		老年期にある対象の特徴を踏まえ、健康障害がもたらす影響を理解し、対象に必要な看護を実践する基礎的な能力を養う。					
到達目標		1) 老年期にある対象の加齢に伴う変化を総合的に理解できる。 2) 健康障害のある対象の健康障害がもたらす影響を明確化できる。 3) 健康障害のある対象の治療上の管理を踏まえた日常生活援助の実践ができる。					
授業の概要		老年期で健康障害のある対象者の看護の方法や展開が理解できる。					
成績評価		全出席とする。実習評価表により評価する。					
教科書等		関連した教科書および参考書、授業資料					
自己学習		実習開始までに指定した事前学習と学内演習に取り組む。					
留意事項(持参品等)		3年次に実習と実習評価する。実習要項を参照する。					
授業計画(授業内容)		1. 老年期で健康障害のある対象者の看護の方法や展開する。					
		2. 実習要項を参照する。					